

平成 29 年第 13 回浅口市教育委員会議事録

1. 招集日時 平成 29 年 11 月 14 日 (火)

2. 場 所 浅口市健康福祉センター 多機能研修室

3. 開 会 午後 3 時 00 分

4. 閉 会 午後 4 時 30 分

5. 出席者 中野留美 中務美保子 原田玲子 藤澤弘幸 佐藤賢次

6. 説明のために出席した者の氏名

教育次長	櫛田忠	教育総務課長	難波勝敏
学校教育課長	原田英明	こども未来課長	石田康雄
文化振興課長	小山朋子	生涯学習課長	清水真
金光分室長	清水房恵	寄島分室長	田中太志
学校給食センター所長	山本峯廣		
教育総務課	山崎友紀 (事務局)		

7. 傍聴人 なし

8. 議 事

日程 1 議事録署名委員について

浅口市教育委員会議規則第 29 条により藤澤委員を指名。

(了承)

日程 2 会期について

本日 11 月 14 日の 1 日会期

(承認)

日程 3 議案第 48 号 複式学級の対応について

(学校教育課長)

金光竹小学校の児童数の現状と今後の推移について、資料により説明。

(教育委員)

平成 30 年度の複式学級を解消する手立てが何かあるか。

(学校教育課長)

県費の教員配当としては、担任教諭枠が 1 つ減り常勤講師の枠も無いため、非常勤講師の枠を要求する事しかない。

(教育長)

算数及び国語は複式学級になってもその学年の勉強をした方がいいことから、非常勤をあてがうことはできる。ただ、全ての教科に非常勤を使おうと思うと、非常に多くの人手がいることになる。

そして、例えば社会などを複式で教えようとする、まず 1 年目に A 学年の内容を教え、2 年目に B 学年の内容を教える AB 年度方式になり、2 年間で 1 セットが基本となる。竹小学校の児童数推移をみると平成 32 年度以降は継続的に複式学級が続く見込みである為、2 年間分の AB 年度方式の計画を立てることができる。しかし、来年、再来年度の事を考えると平成 30 年度が複式、平成 31 年度が単式、平成 32 年度が複式と変則的になる為とても指導計画が組みづらく、平成 30 年度をどうするかが大きな問題となる。

(教育委員)

仮に平成 30 年度複式学級を一つ設けるとしても、AB 年度方式で教えるのではなく、同じ時間に 2 つの学年の異なる教材を交互に指導する、いわゆる「わたり」授業の方法もあるが、どうか。

(教育長)

各学年の人数が複式学級編成基準の中で最大の 8 人と 8 人の合計 16 人となっている。8 人ずつをわたりの授業で見て回るのは、とても負担が大きいと思われる。

(学校教育課長)

平成 31 年度は単式学級に戻ることを想定して平成 30 年度は指導計画を立てないといけない。県へ単式分の県費非常勤講師の時数を要望はするが、状況では難しいことが想定される。

(教育委員)

県費をあてがうことが難しければ、市費で常勤講師を雇わざるを得ないと思う。できる事ならば、市費で常勤講師予算を付けていただけないか。

(教育委員)

現場の声からしても、できるだけそうしてもらいたいと思う。

(教育委員)

平成 30 年度の複式の方法を AB 年度方式にするにしても、わたりにするにしても、複式にするならば指導計画を組み直す時間が必要であるし、複式に対応した教室の環境整備も必要になってくると思う。それを考えると、来年度から複式を開始するには時間が足りないのではないか。複式学級を 2・3 年と 5・6 年のどちらに設置するのかという問題もある。来年度はできるだけ複式を解消する方針で、県費講師が無理ならば市費講師を要望してほしい。

(教育次長)

では、平成 30 年度に関しては、子どもたちにとって 1 年毎に複式、単式、複式と編成が変わるのは教育の安定性を欠き教育上有益性がないこと、複式にするのであれば教育内容は 2 年を 1 セットとして考えなければならないこと、複式の周知や指導計画の編成、教室等環境整備に時間がかかること等をかんがみ、教育委員会の総意として、平成 30 年度複式解消のための市費講師を要求させていただく。

(教育委員)

ただ、今後複式になる流れであることは、どこかで保護者に周知していかないといけないと思う。

(教育次長)

複式の方向性が決定した際には、保護者説明会、PTA 役員、議会などへ説明等行う必要があると思う。

(こども未来課長)

鴨方西幼稚園が浅口市立幼稚園園則に基づき、来年度から 4・5 歳の複式学級となることを報告する。

(承認)

日程 4 諸般の報告について

(学校教育課長)

あさくち教育週間 2017 について、参加者の感想や、成果・課題等の取りまとめ結果を報告。

(教育委員)

教育週間中に来校された方々は、やはり地域の方より保護者の方の方が多かったのだろうか。今回は案内のチラシに「地域の方へ」や「〇〇学区の皆様へ」といった標題があり、地域の方を対象としているのがよく分かってよかったと思う。良い取り組みなので、ぜひとも皆様へ来ていただきたい。教室への入り口のドアを少し開けているだけでも入りやすいと思う。

(教育委員)

学校へ関心がない方もいらっしゃるように思う。子どもや孫が学校へ通っているなら別だが。

(教育委員)

案内チラシを老人クラブなどへ配布するのも手だと思う。今回、私の地区では廃品回収の案内と一緒に教育週間の案内が回っていた。地区で回覧されていてよかったと思う。

(教育委員)

しかし、ただ案内を配布するだけでは認識していただくことはなかなか難しい。参加してみようと思うような公開内容であるとか、何か工夫ができないかと思う。

(教育委員)

受付をきちっとしていると、学校へ入りやすい雰囲気になると思う。もちろん防犯上の面でも必要だと思う。

(こども未来課長)

幼稚園等の園開放の来園者数を報告。

(教育委員)

未就園児の保護者にとっては幼稚園へ行きやすい、良い機会だと思う。

(教育長)

来年度の広報紙へは幼稚園等の日程も記載し、授業公開の雰囲気が分かるような写真を使用するなどして、魅力的な広報になるように工夫してもらいたいと思う。

(寄島分室長)

浅口市マラソン大会について説明。

日程 5 その他について

(教育長)

11月7日の市町村教育委員会連絡協議会研修会の分科会内容について。

(教育委員)

テーマ「家庭の教育力向上について」に参加した。

勝央町では家庭教育講演会の実施、学校・学年などで行われる家庭教育活動の講師代助成、親育ち応援学習プログラムの推進、全戸訪問型家庭教育支援チームによる毎月の連絡会及び年4回の家庭訪問等の事業を行っているとのこと。

家庭教育支援チームは、孤独な家庭を作らないこと、不登校・ひきこもり・ニートの予防を目的にチラシを作成し、全戸訪問して配布しているとのことだった。訪問することで保護者等と交流を図っている。

(教育委員)

テーマ「学力向上対策について」に参加した。

総社市では、不登校を減らす努力を行うことで全体を底上げし、学力向上につなげたとのことだった。また就学前及び中学校卒業後の子どもに関して他部署との連携がとても大事だという事も述べていた。

備前市では平成26年度からタブレットを一人一台導入していること、ALTを全校フルタイムで配置していることを紹介していた。その中で、タブレットに関しては導入して時間が経過していることから結果を出す努力が求められていること、結果を目に見える形で示し説明することが求められているという事も述べていた。

(教育委員)

テーマ「新学習指導要領への対応について」に参加した。

英語については時間数をいかに確保するかが議論になった。確保の方法として、長期休業を短縮する、1コマ(6時間目)増やす、総合の学習の時間に行う等意見があった。また指導者の確保については、小学校の専科による加配確保、小中連携の加配による確保、ALTの増員等意見があったが、教員の英語の研修を行うなど指導者をどう育てるかの議論が必要

だったと思う。またプログラミング教育に関して、浅口市ではロボホンを導入していることを考えると、この分野に関して先行している印象を受けた。

(教育長)

テーマ「就学前教育の充実について」に参加した。

昨年浅口市で作成した園小接続カリキュラム作成に関する取り組みを発表した。私立の保育園関係者も作成に携わり、保・幼・こ・小関係者が同じ場所に集った事が評価された。ただ、このカリキュラムを保護者へどれくらい周知できているかという指摘も受けた。カリキュラムの内容を家庭でも参考に取り組んでもらえるよう今後周知していく必要がある。矢掛町では、やかげっこプログラムという保幼小接続カリキュラムがあるそうだが、保護者に意識を持ってもらう事の大切さを言っていた。

(教育長)

11月1日呉市への先進地視察について。

(教育委員)

できることから地道に取り組んでいき、今の結果が出ていることに感銘を受けた。小学校と中学校が、お互いに理解し合うことが根幹に必要だと感じた。

(教育委員)

小中一貫のカリキュラムを作成することが、学力向上に役立っていることが分かった。

(教育委員)

小中連携は、校長同士連携することが重要であると感じた。

(教育委員)

呉市は長年小中一貫に取り組んでいることもあり、取り組みの完成度がとても高かったように思う。浅口市も小中連携は進んでいると思うが、カリキュラムの作成や体制づくり等参考にできるところは参考にしていきたい。

(教育長)

本日の学校訪問について。

(教育委員)

5月に決定したことを着実に実行しておられると感じた。校

長等のリーダーシップを感じる。

(教育委員)

働き方改革の方向性が、はっきりとしていて良かった。

(教育委員)

働き方改革の実践例については、個人的にも参考になった。

(教育委員)

成果が見えつつあるので、良い取り組みは全校へ広げていってほしい。

(学校教育課長)

次回学校訪問について説明。

次回教育員会議

平成 29 年 12 月 15 日 (金) 13 時 30 分～

ふれあい交流館「サンパレア」多目的室

平成 29 年 12 月 15 日

浅口市教育委員会

教 育 長 中野留美

委 員 藤澤弘幸

作成職員 山崎友紀